

網走川水系河川整備基本方針（案）の骨子

1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

（1）流域及び河川の概要

（概要）

- ・ 水源から河口までの概要
- ・ 幹川流路延長、流域面積、流域の土地利用
- ・ 北海道オホーツク圏における社会・経済・文化の基盤
- ・ 流域の地質、年間降水量

（流域の自然環境）

- ・ 上流部には、天然林が多く残り、サケの産卵床が存在
- ・ 中流部は、広い畑地帯に調和した河川景観を形成、サクラマスやシベリアヤツメ等が生息
- ・ 下流部は、ワカサギの産卵床があり、河岸はエゾノキヌヤナギやくサヨシが繁茂
- ・ 網走湖は、約千年前に現在の形となった海跡湖で、オホーツク海につながっている汽水湖、周辺を含め国定公園に指定
- ・ 網走湖の南東岸には、国の天然記念物にも指定されている女満別湿性植物群落等があり、多様な動植物が生息

（災害の歴史と治水事業の沿革）

- ・ 昭和 32 年に美幌における計画高水流量を 1,200m³/s とし、美幌から住吉までの区間において築堤、掘削等を実施
- ・ 網走川は昭和 44 年一級河川に指定され、昭和 45 年に工事实施基本計画を策定
- ・ 平成 4 年 9 月洪水で大きな被害を受け、以後、現在まで河道掘削等の工事を継続
- ・ 平成 13 年 9 月洪水では網走湖の水位が観測史上最高水位を記録、洪水継続時間が 234 時間に及び漏水による堤防決壊の危険が生じ、湖岸堤防の堤防強化を実施

(河川水の利用)

- ・ 開拓農民による農業用水の利用に始まり、現在は、約 4,900ha に及ぶ農地のかんがいに利用
- ・ 水力発電、工業用水、ふ化養魚用水

(水質)

- ・ 河川では BOD75% 値について環境基準値を概ね満足
- ・ 網走湖では COD75% 値が環境基準の 3mg/l を大幅に超過
- ・ アオコその他、青潮が頻繁に発生し、漁業資源などに影響を及ぼす

(河川の利用)

- ・ 網走湖畔では、キャンプ場や多目的スポーツ施設等が整備され、春期から秋期にかけてはカヌーやボート遊び、スポーツ、散策等に、冬期はワカサギ釣り、スノーモービル等四季を通じて利用
- ・ 網走湖畔や網走及び美幌市街地付近の河畔公園では、様々な祭り、イベント等がおこなわれる

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(治水、利水、環境の総合的な方針)

- ・ 治水、利水、環境に関わる施策を総合的に展開
- ・ 水源から河口まで水系一環とした計画
- ・ 段階的な整備を進めるにあたり目標を明確にして実施
- ・ 健全な水循環系の構築を図るため、流域一体で取組む
- ・ 河川の有する多面的機能を十分発揮できるよう適切な維持管理

ア．災害の発生の防止又は軽減

(流域全体の河川整備の方針)

- ・ 河川改修により、計画規模の洪水を安全に流下
- ・ 内水被害の著しい地域については、関係機関と連携・調整を図りつつ、必要に応じて内水被害軽減対策を実施
- ・ 漏水等の危険性がある区間の堤防については、必要な対策を講じ堤防の安全性を確保

(河川管理施設の管理、ソフト対策)

- ・河川管理施設の適切な管理と施設管理の高度化、効率化
- ・河道内樹木の適切な管理
- ・超過洪水等に対する被害の軽減
- ・情報伝達体制の充実等の総合的な被害軽減対策
- ・本支川及び上下流バランスを考慮し、水系一環した河川整備

イ．河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

(河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持)

- ・今後とも関係機関と連携して広域的かつ合理的な利用の促進を図るとともに、必要な流量を確保するよう努める
- ・情報提供、情報伝達体制を整備するとともに、水融通の円滑化などを関係機関及び水利使用者等と連携して推進

ウ．河川環境の整備と保全

(河川環境の整備と保全の全体的な方針)

- ・人々の関わりを考慮しつつ、良好な河川景観の保全と多様な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ
- ・網走湖については汽水環境を維持しつつ水質を保全
- ・河川環境の整備と保全が適切に行われるよう、空間管理等の目標を定め、地域と連携しながら川づくりを推進

(動植物の生息地、生育地の保全)

- ・アオサギの繁殖地等となっている河畔林や、ミズバショウ群生地となっている網走湖畔の水辺環境の保全
- ・サケ、ワカサギ等、魚類の生息・成育する環境の保全

(良好な景観の維持・形成)

- ・広大な畑地帯、網走湖、近隣の街並みと調和した市街地区間の水辺景観の保全

(人と河川との豊かなふれあいの確保)

- ・人々が快適にレクリエーション等を楽しみ、交流できる河川空間の整備、保全

(水質)

- ・網走湖の水環境を改善するため、下水道整備や家畜排せつ物処理施設の整備による流域汚濁負荷の削減等の実施、湖内汚濁負荷の削減等を実施
- ・湖内の無酸素となっている塩水層が水質に与える影響が大きいことから、引き続き調査検討を進め、必要な対策を講じる
- ・各施策の実施にあたっては、関係機関や地域住民との連携を密にしつつ、流域一体となって取り組んでいく

(河川敷地の占用及び工作物の設置・管理)

- ・治水・利水・河川環境との調和を図る

(モニタリング)

- ・環境に関する情報収集やモニタリングを適切に行い、河川整備や維持管理に反映

(地域の魅力と活力を引き出す河川管理)

- ・河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川利用に関する安全教育等の充実を図る
- ・住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を推進

2. 整備の基本となるべき事項

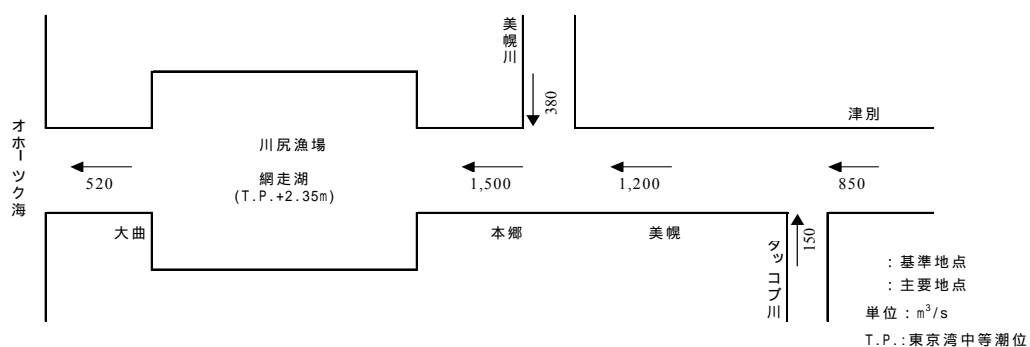
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量(m ³ /s)	洪水調節施設調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量(m ³ /s)
網走川	美幌	1,200	0	1,200

(2) 主要な地点における計画高水流量

網走川計画高水流量図



(3) 主要地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P(m)	川幅 (m)
網走川	大曲	6.6	2.29	130
	川尻漁場	13.2	2.35	-
	本郷	21.7	5.75	300
	美幌	29.8	12.55	230
	津別	48.8	72.29	80

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

- ・美幌地点：利水の現況、動植物（サケ、サクラマス、カラフトマス）の保護等を考慮し、概ね 4m³/s